



Rotary 小樽南ロータリークラブ会報

Club Homepage URL <http://rid2510.org/otarusouth/>

●例会場/ニュー三幸 ●例会日/毎週金曜日12時30分 ●事務局/〒047-0032 小樽市稲穂1-3-6 ☎0134-33-3500

36

2018年6月1日発行
通巻 第2831号

1960年創立
昭和35年2月5日

●本日6月1日金のプログラム

◎職業奉仕委員会担当例会
スピーカー：岡崎 芳明 会員

●来週6月8日金のプログラム

◎移動例会 潮見台記念シャンツェ(植樹)

●再来週6月15日金のプログラム

◎クラブフォーラム

●2017-2018年度 IRテーマ



ロータリー：
変化をもたらす

2017-2018年度会長
イアン H.S. ライズリー

2017-2018 地区目標

- 会員増強の推進
- 情報の共有
- 環境保護の取り組み
- ロータリー財団寄付を、5%増加に向け取り組む

松浦年度信条

善 職業奉仕

美 四つのテスト

快 楽しもう

●第36回例会報告 5月25日金 「未来の小樽について」スピーカー:宮本 融氏 司会 斎藤 仁 副会長

●ロータリーソング 「それこそロータリー」

●ゲスト・ビジターの紹介

宮本 融氏 (国際政治学者)

熊澤 隆樹氏 (小樽RC・PG)

●ポールハリスフェローピン授与 斎藤副会長

公益財団法人ロータリー日本財団への寄付



新倉 吉晴会員 PHF+4	米山 八郎会員 PHF+3
野村 定弘会員 PHF+3	廣瀬 保男会員 PHF+3
斎藤 仁会員 PHF+3	松浦 光紀会員 PHF+2
鈴木 崇史会員 PHF+2	坂口 榮一会員 PHF+2
村越 仁会員 PHF+1	地山 胤敬会員 PHF
山谷 憲弘会員 PHF	石川 稔会員 PHF
林 正章会員 PHF	松尾和歌子会員 PHF

●幹事報告

●来週6月8日開催の移動例会(植樹)は、野外での例会になり、また、天候等考慮しまして、カジュアルな服装でお越し下さい。

●委員会・同好会報告

ゴルフ同好会 三栖キャップテン

5/26 ゴルフ同好会

今年1回目の例会を開催いたします。

ゴルフ同好会5月例会成績表

優勝 紺谷 準優賞 米山	
3位 福島 4位 平田 5位 山田	
6位 見延 7位 加藤 8位 三栖	
B B 西谷 各会員 (敬称略)	

●愛耐会開催

5/24「きらく」にて5月初旬に49日を迎えました、故梶 健一会員(前愛耐会会長)へ献杯。

そして 次次期当クラブ会長予定者 小笠原会員へ前途を祝して、6月で退会される、大谷会員へ惜別と感謝を表し、春宵一刻值千金の「愛耐会」を過ごしました。



●出席委員会

平成30年5月25日(金)

会員総数 66名 本日の欠席者 25名
浅村、東、阿部、井手、大淵、岡崎、桂、佐藤(公)、佐藤(友)、柴田、高橋、新倉、野村、林、堀内、前川、松尾、松浦、宮川、湊、山田、山谷

平成30年5月11日(金)

会員総数 66名	出席摘要免除者数 9名
病欠者数 0名	出席計算者数 0名
ホーム欠席者数 17名	メーキャップ数 2名
純欠席者数 15名	確定出席率 82.25%

●メーキャップ

5/18 廣瀬 (尼ヶ崎RC)
5/22 山谷 (小樽RC)
5/24 小笠原、濱本 (愛耐会)



卓話 小樽の未来を考える —スポーツビジネスの可能性—



宮本 融氏
(国際政治学者)

「まちづくり」や「地域活性化」といっても、その中身は玉石混交で、理論的裏付けを持たないものが多い。この国では、東京に本社をおく企業が貿易で稼いだ富を税として国が吸い上げ、土木事業という形で地方に分配することで高度成長のゆがみを是正してきたが、時代は変わった。土木事業で雇用するような若くて元気で安価な労働力など地方にはもはやいない。アベノミクスも、日銀による通貨供給量の増加であって、地方都市が受けるメリットは小さい。経済成長政策といっても、地方都市には役に立たないものばかりだ。中央省庁に相談に行っても、各地域の抱える問題にふさわしい処方箋をくれるわけでもない。だから、地域が自ら主体的に考え、選び取る以外にない。

「人口減少だから企業誘致」という声をよく聞かすが、よく考えてほしい。日本から企業が逃げていく時代に、どんな企業を誘致するのか。戦略もなしに、誘致補助金の積み増し競争に参入しないでほしい。運よく企業誘致に成功したとして、新規雇用はどうするのか？この街の人口が12万を切ったもちきりだが、人口構成を見ると更に愕然とする。

20～34歳という誘致企業が新規採用しようとする層は、他世代に比し極端に少ないのだ。自治体が税金をつぎ込んで必死に企業誘致に成功したとたん、地域の平均賃金が上昇し、安定して経営できていた在来の企業が廃業に追い込まれる例などいくらでもある。進出企業は本社の都合で撤退するから、撤退されたら何も残らない。

結局、内発的にあるものを育てていくしかない。チャンスはその延長線上にしかない。若者にとって住んでみたくなる小樽であるためにはどうしたらよいか？教育、医療、生活環境、スポーツ。そうしたことを総合的に考える必要がある。日本の若者が世界で活躍しているのは、例えばスポーツだ。かつてスキー王国であり、名選手を輩出してきたこの街の現状はどうか。小さな政治に翻弄され、不十分なジャンプ台を作っては壊し続けた結果、国際大会開催可能な施設すらない惨状である。人口4千人に満たない下川町が有名選手を次々輩出している。Slatnerというスロベニアのメーカーは、2006年には特殊なビンディングを製作する個人企業だったが、高梨沙羅選手が使用したことで今や世界的スキー用品製造会社に成長した。小樽が成長するチャンスはいくつもある。実現には地域としての強い意思が必要だ。

(誌面の都合上多くの内容を割愛いたしました、お詫び申し上げます。)

天地人 天の時、地の利、人の和

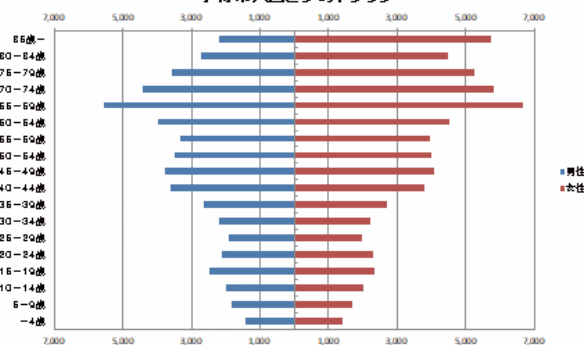
間違った(?)「地域経済政策」

命題「人口減少しているから企業誘致する必要がある」

- ・ どの地方都市も人口減少に悩んでいる
 - 移民
 - ・ 岡山県美作市 萩原誠司市長 ⇒ ベトナム人
 - 学校の誘致
 - ・ 大学の設置基準の緩和
 - ・ 少子化と大学経営の困難化 成功例? 秋田県・国際教養大 ⇒ 使った税金を取り戻せない ex. 弘前市、今治市?
 - 高齢者福祉施設の誘致
 - ・ 高齢化と施設不足
 - ・ 福祉分野の価格決定構造は「社会主義」「公定価格」⇒ 働いてくれる若者いない
 - ・ 「国民健康保険受給者」の移動と地方財政 ⇒ 老老介護 ⇒ 地方財政を苦しめる
 - 「魔法の銃弾」としての「企業誘致」
 - ・ 都道府県庁の雇工労働部長の次長に大量の経産省出身者
 - ・ 都道府県知事の出身官庁で一番多いのが経産省
北海道(高橋)、愛媛(大井川)、岐阜(吉田)、和歌山(仁取)、福岡(小川)、大分(広瀬)
大隈(太田)、神橋(仲井真)、新潟(原田)

低賃金で働いてくれる若者など、どこにもいない
—棺桶型—

小樽市人口ピラミッドグラフ



まごころ箱

高木(成)会員 夫人誕生祝。

村越会員 お先に失礼します。

いつも有難うございます!

まごころ箱
入金集計額
(H29.7.7~H30.5.25)

5月25日分 2,500円

合計 **889,000円**